

持続可能な地域づくりを考えるプロジェクト

「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」開催

来年度の本格開催を目指し、若者たちが議論。具体的なプログラム企画案を発表。

【日時】2023 年 2 月 17 日（金）15:00～15:30

【会場】ナショナルトレーニングセンター J-VILLAGE（福島県）

東日本大震災から 12 年を迎えようという今、福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難指示の解除が進み、避難者の帰還が進んでいます。その一方で、震災以前からも全国各地に存在していた課題ではありますが、震災を契機として被災地で特に顕在化・加速化した課題として、人口減少や高齢化、産業の担い手不足などの課題に直面しています。こうした課題の解決に向けて、**2023 年度以降、福島県の復興のシンボルである「J-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」を作りたいと思います。**

そこで、その「話し合いの場」に向けた準備を行うプロジェクトとして、**2023 年 2 月 16 日（木）、17 日（金）の 2 日間、「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」を開催します。**

今回の会議では、県内外の大学生、若手の社会人に参加いただき、福島県浜通りの現地視察、地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々とのディスカッション、グループワークなどを通じて、**来年度の具体的な議論のテーマや進め方などのプログラム案を検討します。**

その後、2 月 17 日（金）に、**2023 年度以降の「話し合いの場」の開催と若者が考案した具体的な来年度のプログラム案について、報道関係者様に発表させていただきます。**

ご多忙の折と存じますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

記者発表会概要

会議名：「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」

実施主体：株式会社 J ヴィレッジ

「新しい東北」官民連携推進協議会（事務局：復興庁（事務委託先：株式会社 JTB））

日程：2023 年 2 月 17 日（金）15:00～15:30 ※メディア受付は 14:30～

場所：ナショナルトレーニングセンター J-VILLAGE（福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字美シ森 8）

プログラム参加者：県内外の大学生、県内の若手社会人 計 15 名程度（予定）

< 記者発表会の内容 >

- ・第 1 回「話し合いの場」の開催発表（J-VILLAGE より）
- ・今回の会議で考案した来年度のプログラム案の発表（プログラム参加者より）
- ・質疑応答
- ・フォトセッション

計 30 分

【参加申込】

持続可能な地域づくりを考えるプロジェクト

「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」開催

来年度の本格開催を目指し、若者たちが議論。具体的なプログラム企画案を発表。

【日時】2023年2月17日（金）15:00～15:30

【会場】ナショナルトレーニングセンター J-VILLAGE（福島県）

参加ご希望の方は、下記をご記入いただきメールでお知らせください。

メールアドレス：press@makesweb.com

貴媒体名/番組名：

貴社名：

部署名：

代表者お名前：

人数：

TEL（できるだけ携帯電話をお知らせください）：

E-MAIL：

持込機材：スチールカメラ / ムービーカメラ（ハンディ・ENG） / その他

その他ご要望：

【取材時のご注意】

- ・新型コロナウイルス感染状況に応じて、日時を変更または中止させていただく可能性がございます。
- ・体温が37.5度以上の方のご来場は、お断りさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- ・ご来場の際は、マスク着用のご協力をお願いいたします。
- ・会場内に消毒用アルコールを設置しておりますので、ご来場の際は手指の消毒のご協力をお願いいたします。
- ・座席は先着順とさせていただきます。

■ 「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」 プログラム内容

≪1日目≫ 2月16日（木）

[福島県浜通り視察] 8:30～15:30

①東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の記録の収集、保存、展示などを行っている震災伝承施設。

②中間貯蔵施設

福島県内の除染に伴い発生した土壌や廃棄物を最終処分までの間、安全に集中的に貯蔵する施設。

③福島しろはとファーム

檜葉町の農業再生に向け、「白ハト食品工業」（大阪本社）と共同し、約50haのサツマイモ畑において、サツマイモの試験栽培を実施している施設。この施設は、国内最大級の「檜葉おいも熟成蔵」が整備されているほか、自動運転トラクターやドローンによる農薬散布等のスマート農業が行われている。

[ディスカッション①] 15:45～18:00

福島県の復興の取り組みに関する経緯 / 地元で活躍している方々との意見交換 /

福島県の現状や課題に関するグループディスカッション（次年度のプログラムのテーマ案の検討）

≪2日目≫ 2月17日（金）

[ディスカッション②] 9:00～11:30

第1回の「話し合いの場」の進め方に関するグループディスカッション

※1日目に議論した福島県の抱えている課題の解決等に向けて、第1回の「話し合いの場」の具体的なテーマや進め方（募集する対象・方法、プログラム内容（ポスターセッション、ディベート、パネルディスカッション、コンテスト、視察など）について、議論。

[記者発表] 15:00～15:30

■参加団体（予定）

- ・株式会社Jヴィレッジ（事業運営部）
- ・株式会社東邦銀行（法人コンサルティング部 公務・地域商社事業課）
- ・福島県（企画調整部）
- ・国立大学法人 福島大学 地域未来デザインセンター
- ・一般社団法人 ふくしま連携復興センター
- ・復興庁（復興知見班）
- ・復興庁（福島復興局）